

都市再生整備計画 事後評価シート
昭和・津田地区

平成23年3月

徳島県徳島市

様式2-1 評価結果のまとめ

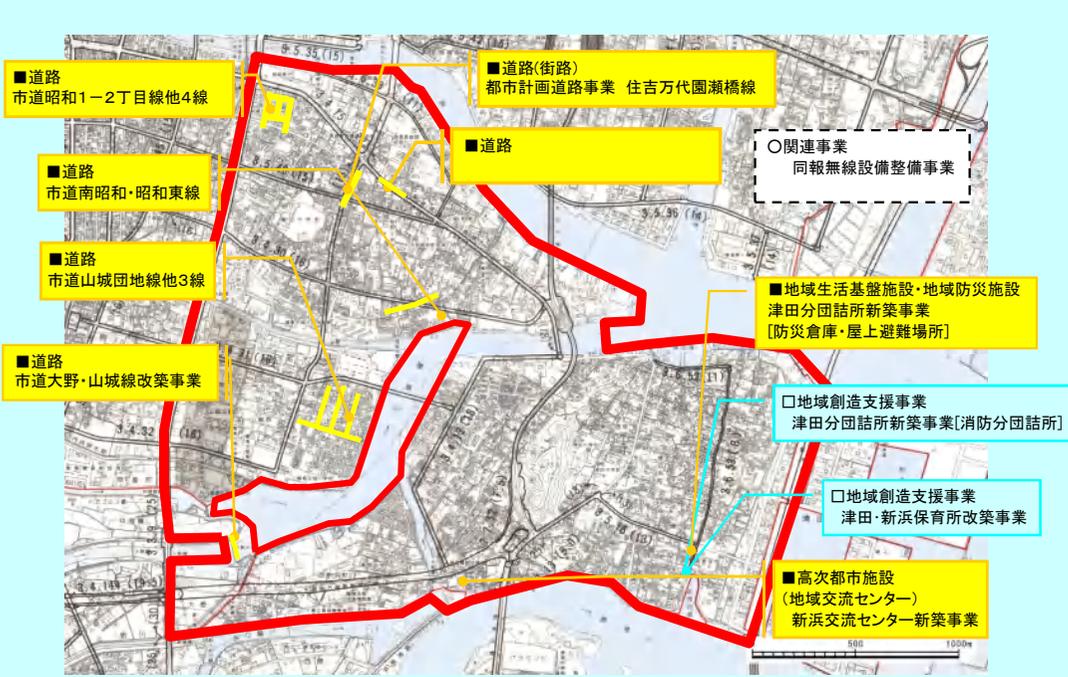
都道府県名	徳島県		市町村名	徳島市		地区名	昭和・津田地区			面積	536ha			
交付期間	平成18年度～22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	1,485.9百万円	国費率	0.374					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	①道路(都市計画道路事業 住吉万代園瀬橋線、市道山城団地線他3線、市道南昭和・昭和東線) ②地域生活基盤施設(津田消防分団詰所) ③高次都市施設(新浜交流センター)										
			提案事業	①地域創造支援事業(津田・新浜保育所、津田分団詰所)										
	当初計画から削除した事業		基幹事業	-			-			-				
			提案事業	-			-			-				
	新たに追加した事業		基幹事業	[道路] ①市道昭和1-2丁目他4線(第1回) ②小学校前あんしんカラー舗装事業(第5回) ③市道大野・山城線改築事業(第5回) ④市道西新浜2丁目西1号線他1線道路工事事業(第5回)			①道路側溝等の改良により、安全で快適な通行空間を確保するため ②小学校前の道路をカラー舗装することにより、児童の通学の安全性を向上させるため ③大野大橋は災害時の避難経路となる橋であるが、落橋の危険性があり、早急の改築が必要であるため ④路面・側溝の状態が悪く、避難時の危険性があり、早急の改良が必要であるため			影響なし				
			提案事業	-			-			-				
交付期間の変更		当初	平成18年度～22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
		変更	平成 年度～ 年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	モニタリング	評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	津田地区消防団員充足割合	%	82	H17	100	H22	-	100	○	あり なし	老朽化が進んだ消防分団詰所を新築・移転させ、同報無線を設置することにより、地区の消防力が向上され、指標の達成に繋がった。	平成23年4月予定	
	指標2	津田地区(南東部)津波避難者収容率	%	5	H17	14	H22	-	11.8	△	あり なし	地区人口が増加したこと、消防分団の収容人数が予測よりも低くなり、指標は未達成となったが、ある程度の効果を挙げることができた。	平成23年8月予定	
	指標3	公共施設耐震化率	%	33.3	H17	53.3	H22	-	86.7	○	あり なし	消防分団、交流センターの新築事業、保育所の改築事業により、指標を達成させることができた。	平成23年4月予定	
	指標4										あり なし			
	指標5										あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	モニタリング	評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	自主防災組織数	組	34	H17	/	/	-	56	/	/	地区の道路や避難拠点の整備を行うことが、住民の防災意識の向上に繋がっており、従前値から数値を伸ばすことが出来た。	平成23年7月予定	
	その他の数値指標2	小学校前カラー舗装整備率(市内全域)	%	6	H17	/	/	-	41	/	/	市内全域で小学校前のカラー舗装事業を推進しており、従前値から数値を伸ばすことができた。	平成23年4月予定	
	その他の数値指標3	橋りょうの落橋防止対策実施率(市内全域)	%	20	H17	/	/	-	30	/	/	市内全域で橋りょうの落橋防止対策を推進しており、従前値から数値を伸ばすことができた。	平成23年4月予定	
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の前をカラー舗装したり、保育所の改築を行うことで、児童の安全性を高めることができた。 ・ 事後評価原案の公表時に、アンケートを実施した結果、地区の防災力が高まったという意見が多く見られた。 ・ 評価委員会で、津田コミセンの前に消防分団が移転した結果、団員の増加に繋がっており、消防車も出勤しやすくなったという意見があった。 													
5)実施過程の評価			実施内容						実施状況			今後の対応方針等		
	モニタリング		なし						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			なし		
	住民参加プロセス		自主防災組織・町内会等を対象とした防災指導・防災講演を行い、防災マップを作成し、住民に配布することで防災意識の向上を図った。						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 今後も引き続き防災訓練の実施、学校における防災教育の推進等を行うことで、地区の防災意識の向上を推進していく。		
	持続的なまちづくり体制の構築		地区内で自主防災組織の結成を推進することで、住民が連携して防災活動を行えるようになった。						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 今後も自主防災組織の結成を推進して、住民が安心・安全に暮らせるまちづくりを行っていく。		

様式2-2 地区の概要

昭和・津田地区(徳島県徳島市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
災害に強い安心・安全のまちづくり(来るべき南海地震に備えて) ①消防力と地域コミュニティの連携を強化し、防災機能を向上させることにより、住民が安心して安全に暮らせるまちづくりを行う。 ②老朽化の著しい保育所を改築し、児童の安全を確保するとともに、交流センターを整備し避難場所の確保を図る。 ③都市計画道路の整備を促進し、幹線避難路の強化を図る。また市道では、バリアフリー化により災害弱者の避難を容易にする。	津田地区消防団員充足割合	%	82	H17	100	H22	100	H22
	津田地区(南東部)津波避難者収容率	%	5	H17	14	H22	11.8	H22
	公共施設耐震化率	%	33.3	H17	53.3	H22	86.7	H22
	自主防災組織数	組	34	H17	—	—	56	H22
	小学校前カラー舗装整備率(市内全域)	%	6	H17	—	—	41	H22
	橋りょうの落橋防止対策実施率(市内全域)	%	20	H17	—	—	30	H22



津田・新浜保育所改築事業





津田分団詰所新築事業



新浜交流センター新築事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・市道の側溝改良等で災害弱者の避難を容易にすることができたが、災害時における避難を迅速・安全に行うために、住民の防災意識の普及を今後も行っていく必要がある。 ・地区の避難場所の確保と避難路の強化を行ったが、市民に対して、新たに確保された避難場所と避難経路の周知を図っていく必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の安全性を高めるために、公共施設の耐震診断・耐震補強事業を積極的に推進していく。 ・地区内における避難場所の確保を行うために、民間施設も含めた避難場所の確保を図っていく。 ・住民の防災意識を向上させるために、防災訓練・防災講演を積極的に実施していく。 ・住民が連携して防災活動を行い、地区の防災体制を強化するために、自主防災組織の結成を推進していく。